

平成3年9月10日

社団法人 情報処理学会
調査研究運営委員長 殿

データベース・システム研究会
主査 増永良文

データベース・システム研究会継続について（お願い）

下記のとおり研究会の活動を継続いたしたく、よろしくお取り計らい下さいますようお願い致します。

記

1. 継続希望研究会名

データベース・システム

2. 継続の趣旨

データベースとその管理システムはハードウェア、ソフトウェア、ヒューマンウェアと並んで、コンピュータの必要欠乏からざる要素と考えられる。そのよ
うな研究を育成し、研究討論の場を提供し、わが国昭和48年度にデータ・ベ
術の健全な発展に資するたため、情報処理学会には昭和48年度にデータ・ベ
研究会が設立され、現在のデータベース・システム技術は、コダシルデータベ
データベースと発展を遂げ、またデータベースの応用ドメインも、在庫管理や人
といった、いわゆるビジネスデータの管理から、CADやCASEの管理へと、変
メディアデータベースのたため、いわゆる先進的データベースの管理へと、変
している。現在、そのような新しい応用システムが注目集められているが、そ
としてオブジェクト指向データベースの多岐にわたる演進が山積し、社会性
には未知の部分も多岐にわたる。この問題が山積し、社会性
データベース・システム研究の意義はますます増大し、社会性
データベース・システム研究の意義はますます増大し、社会性
よるような状況の中、本研究を継続する。

3. 研究分野

基礎理論、データモデル、DB設計、データベース管理システム、情報資源管
理、質問処理、トランザクション管理、DBプログラミング言語、DBマシ
分散型DB、演繹DB、オブジェクト指向DB、オフィスDB、エンジニアリ
ングDB、マルチメディアDB、先進的DB応用など

4. その他

現在の研究会の名称「データベース・システム」を「データベースシステム」
と変更することをお願いする。現在の名称は昭和57年度に「データベース管
理システム」に代わり付けられた。当時の主査（現中央大学酒井博敬氏）によ
れば、その頃ACM Transactions on Database Systemsが発刊され、データベ
やその管理システムを含む広い意味で、それに習い「データベース・シ
と名称変更したという。現在も研究会の趣旨は当時と変わらないが、それ
には現在「中黒（・）」を使わず、「データベースシステム」とするのが一
的であるため。